

Meloidogyne enterolobii

(英名 : pacara earpod tree root-knot nematode)

1. 特徴

卵は根の表面近くにゼリー状の袋に包まれて産下され、土壤中で孵化した2期幼虫は、寄主植物の根に向かい土壤中を移動する。口針や根の外傷を利用し、根の先端に近い表皮細胞から侵入し、維管束近辺まで表皮細胞内を移動する。2期幼虫が定着し、食害することにより、根の細胞は巨大細胞と呼ばれる多核体細胞に分化する。同時に、周辺の組織にコブが形成され、植物は養水分の吸収が阻害される。本種の寄生は植物の成長や収量、環境ストレスへの耐性に影響を及ぼす。

2. 発生地域

ア ジ ア : スリランカ、タイ、中国、ベトナム

ヨ ー ロ ッ パ : スイス

ア フ リ カ : コートジボワール、セネガル、ブルキナファソ、マラウイ、南アフリカ共和国

中 南 米 : 米国、グアテマラ、コスタリカ、西インド諸島、ブラジル、ベネズエラ、メキシコ

3. 寄主植物

アラビアコーヒー、キュウリ、サツマイモ、スイカ、トウガラシ、トマト、タバコ、ナス、ペポカボチャ、バンジロウ等

4. 被害

代表的な症状は、成長阻害、萎れや葉の黄化である。ばんじろうでは、葉の黄化や落葉症状が出て、3年以内に壊死することもある。また、にんじんでは、矮化や黄化、主根や繊維状の根に円形の不規則なこぶを作る。

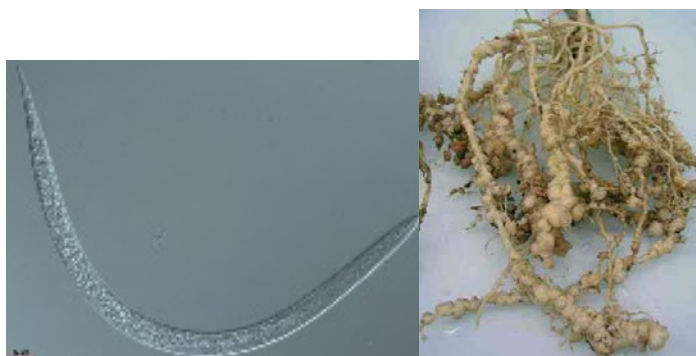


図 1 : *M. enterolobii* 図 2 : 本線虫に被害された植物の根